

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人上善会		
事業所名	グループホーム 星のふる里		
所在地	石垣市新川2105番地		
自己評価作成日	平成28年10月24日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku_ip/47/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigovosCd=4770700179-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成28年 11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は病院が近くに併設されており、急変時や夜間時に速やかに対応ができる為、ご家族からは「心強くて安心」との声が聴かれています。地域の行事やイベントが開催する際は入居者様全員と職員も多めに配置して 安心して楽しめるように支援しています。行事等で外出された時入居者の表情は事業所では見られない顔の表情、行動が普段では見られない一面もあり、実施して良かったと職員間でも声が聴かれています。継続して計画していきたいと思えます。福祉体験や介護等体験等の学生や実習生を受け入れて、体験や実習を通して事業所の理解と福祉・医療の知識をできる限り肌で感じながら伝えています。年に1回は家族交流会を開催し、入居者・家族・職員の交流と親睦を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13周年を迎えた当事業所は、母体法人である病院や老健施設等と同じ敷地内にあり、各種職員研修や災害訓練等も一体となって取り組んでいる。敷地内の医療と連携し、利用者の日頃の健康管理や緊急時の対応等、協力関係を築いている。全職員が理念を共有し、「意思や人格を尊重し、できることへの自立援助」に沿って、一人ひとりのペースに合わせた利用者主体のケアに努めている。今年度は、食事が楽しみとなるよう、毎週火曜日は「人気メニュー」に取り組んでいる。入浴を週3回実施から4回へ変更する等、サービス内容の充実を図っている。居室は広いスペースで、洗面台やテレビ、家具類等が備え付けられ、利用者がゆったりと過ごせる環境作りがされている。月間目標を毎月玄関口ビーンに大きく掲げて、前向きにケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 1月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある意思や人格を尊重し、出来ることへの自立支援をできる限り職員の統一したケアを実践し、本人が嫌がることなくスムーズに快くできるように声かけ支援しています。理念は毎朝ミーティングにて勤務者全員で唱和しています。	設立時に全職員で作成した理念は、法人理念や毎月の目標と共に玄関に掲示し、周知している。職員は、毎朝理念を唱和すると共にミーティングで確認し、理念の「意思や人格を尊重し、できることへの自立援助」に沿って、利用者を主体としたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ハーリー・豊年祭等に見学してして周りの方とも交流しながら楽しんでいます。又、スーパーなどへ食材の買い物に職員と一緒に掛けて近隣、地域とのふれあいを大切にしています。	今年度は、加入する自治会や地域の保育園等との交流はなく、地域の祭り見学や買い物他、法人の行事に訪れる地域住民と交流している。認知症キャラバンメイト活動では、商店等で啓発用のチラシ配布に協力し、中学生や教職員の福祉体験実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年受け入れている福祉体験や職場実習を通して認知症の理解を伝えて、実践と共に認知症の気持ちを少しでも理解できるよう入居者様と接してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で意見が出てきたことを早めに取り組みするようにしています。すぐにできるものから進めて、職員で話し合いながら実践できるように取り組んでいます。又、行政から地域から関連の話題も出て、アドバイスを頂いたりして問題解決方向に進んだりすることもあります。	会議は、利用者、家族、地域代表者等が参加し年6回開催しているが、行政が1回(10月)欠席している。会議では、利用者や活動状況、事故や外部評価等を報告し、災害対策等意見交換している。議事録からは、事故や外部評価結果の記録は確認できない。	地域密着型サービスにおける運営推進会議の意義と役割を確認し、行政が毎回参加可能な検討及び、議事録を整備するとともに委員への議事録の提供が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市役所職員よりサービスについての話がある時は、内容を職員と話し合いながら見直しや改善に努めています。又、入居者によっては地域包括との連携を取り、情報交換したり、カンファレンスに出席してアドバイス頂いたりしています。	市役所には、毎月待機者情報の確認や更新手続等で出向いたり、電話等で情報交換している。市から各種研修案内や地域高齢者の緊急時受入れ等に対応し、市の担当者会議への参加や訪問調査する等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない努力を職員間でも話し合い、居室においても夜間はセンサーなどを使用して対応できるようにしています。また玄関・ベランダ等は常時開放されており、外に出る場合は職員も見守り・付添いしながら対応しています。	身体拘束をしないケアの方針の作成やマニュアルを整備し、研修等で職員に周知している。玄関等は施錠しないで支援し、リスクについては契約時に説明している。調査時、自傷行為防止のために右腕の固定、両手にミトン使用の利用者がいるが、拘束に係る一連の手順を説明し、同意を得たうえで、実施している。	

沖縄県(グループホーム 星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待の事件の報道が流れる中で、当事業所では虐待はないですが職員間でも話し合い、情報の共有化を図るようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	近いうちに成年後見制度を利用されている方が入居してきますので、勉強会を開いて情報収集と共有を行い、関係機関との連携を図り家族とも連絡をとり、支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は時間をかけて丁寧に説明し、ご家族の質問がある場合は質問を聴きながら確認しています。内容に関してはご家族より同意を得て署名、捺印しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会や訪問時にご家族により、要望、苦情、意見等がありましたら聞き入れるように職員には徹底しています。玄関には意見箱を設置しています。	利用者の意見は直接聞き、家族からは、面会時や担当者会議の他、家族交流会や運営推進会議等で聞いている。家族から「島の食材を使った料理や週に1度は献立を豪華に」の要望に対応している。災害訓練への参加や外出時の同行支援を申し出る家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見・相談がある場合はその都度聞き入れており、毎月のミーティングでは取り上げられた内容について話し合うようにしています。話し合いで入居者様のケアの質の改善や職員間での情報の共有、環境整備などに生かされています。	職員意見は、ミーティングや申し送りの他、年2回実施の個別面談や業務内でも随時聞いている。職員から「お膳や食器類を新しく揃えたい」等があり、物品購入したり、業務内容の変化に対応できるよう勤務体制を見直す等、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回は個人努力目標を立てて、上司数名と本人を交えて話し合いをしています。職員1人ひとりが目標を設定し、実践して評価を行い、給与や賞与などに反映されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では学習委員会による研修の報告会や勉強会があり、参加しています。又、外部でも法人関係の講師を招いて、講演会などもあり勉強しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元の同業者とは電話連絡で情報の共有を行っている。以前に訪問をしたこともあり、職員同士の交流もあり今後も計画をして、交流を深めてサービスの質の向上を目指しています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した時にはどうしても慣れなくて不安そうなので、困ったことはないか等声かけをしたり、傾聴したりして確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居したての頃は、ご家族も心配して様子を見に来ますので、面会時や訪問した時にホームでの様子を報告し、サービスの要望などがないか声かけして確認をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を面談の中から確認し、本人にあったサービス、本人が必要としているサービスを確認してケアに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には日頃より、共に支え合う共同生活者として関係を築いていこう声かけしている。又、お互いの信頼関係を築く為になじみの関係を作り、人生の先輩としての姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から、行事・外出の際に人手がない時は声かけて下さいとの声かけがあり、これからは参加の声かけをして、より良い家族関係を構築していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々であるが親戚の方や友人の方面会に見えたりして交流を深めている。又、家の近くに行事等があると参加されて、友人や知り合いと話されたりしています。	利用者の生活歴や職歴等は、本人や家族の情報から把握している。今年度は、市や法人の祭り等で出会う友人や地域の人との交流はあったが、利用者の馴染みの人や場等、関係継続に向けた支援には至っていない。面会も家族を中心にこなされている。	利用者がそれぞれの地域で培ってきた人間関係や社会との関係の把握に努め、馴染みの人や場への支援が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみ等、みなさんで一緒に共同作業して声かけながら、時にはお喋りしながらお互い支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこれまでの関係を大切にして、必要に応じて経過をフォローし相談や支援をしています。又、施設へ移動された方を面会に伺い、お話ししながら状態、状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話のできる方は本人より思いや意向を確認し、出来ない方は本人の状態や、家族からの聞き取りで本人の思いを確認し、把握するようにしています。	利用者の思いは、入浴や外出等の個別対応時や担当者会議で聞くようにし、「食べたいものや出かけた所」等を把握している。困難な場合は、行動や言動等から汲み取る他、家族に確認している。得られた情報は、職員間で共有し、統一したケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談時、又面会時に家族の方より、本人の今までの生活歴や様子を聞き取り確認し、ケアに生かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員ミーティングで話しが出た場合はしっかり話し合い、統一したケアをもとにできること、出来ないことを職員が把握し、本人の能力が引き出せるようにケアの質の向上に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態が以前より悪くなったり、変わったりした場合には担当者で話し合い、又、担当者会議を定期的に行き、ご家族からの意見を聞き取りながら情報を収集してケアプランを見直したりして、作成しています。	担当者会議は、利用者や家族、担当職員等が参加し、活動や役割等、意向を確認し介護計画を作成している。毎月、職員カンファレンスで利用者の状態を確認し、介護計画は目標や支援内容に沿って3か月毎にモニタリングを実施し、更新時や3か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中から、状態の変化を確認出来たら、職員で細か聞き取り話し合い介護計画の見直しをしている。		

沖縄県(グループホーム 星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診以外は、皮膚科等のご家族にお願いしています。内容はご家族より結果を報告してもらい、急変時の時は家族へ連絡し付添いもお願いしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の方も参加しているので、地域の情報・資源を話し合っている。地域との連携は進んでいないが、事業所の紹介はパンフレットなどを配って共同できるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院は併設し、いつでも受診ができる体制にある。普段は職員が受診に対応しているが、ご家族より声があれば一緒に受診して主治医よりお話を聞いています。緊急な場合も直ぐに病院が受診でき、ご家族に連絡できるように支援しています。	受診支援は、かかりつけ医や協力医に変更している利用者もいる。受診時は職員が対応し、他科受診の場合は家族が同行している。受診は書面で情報提供し、家族には口頭で伝えている。看護師が薬の管理面を担当し、利用者の体調等について、職員は毎朝看護師に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回勤務し、勤務でない時は毎朝、健康状態、気づき、変わった事などがあつたら報告しています。又、指示があつたら対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には受け入れができるよう医療との連携を密にして、面会に行くなどして入院先の担当看護師や相談員より状態を聞き取り、情報収集して連携を取るようになっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居した時に、本人・家族と一緒に話し合いをし、事業所でできることを説明し方針を共有し、医療機関の希望の場合は関係機関との連携を行っています。	重度化や終末期に向けた事業所の方針については、利用開始時に説明し、状態変化に応じて家族と話し合っている。現在、看取り支援についての要望はないが、同一敷地内にある法人病院との連携を構築しており、職員はミーティング等で、対応方針や状況を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対応できるようにマニュアルがあり、職員間でも看護師より教わったり、ミーティングで勉強会をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や防災訓練などで職員が実践できるようにしています。特に新人職員が入ってきた時は十分に対応できるように説明・実践できるようにしています。課題ではあるが、近隣住民との連携を密にしていきたい。	昼夜想定避難訓練を2回、自主訓練も1回実施している。法人の自衛消防隊や施設職員の協力を得て実施し、運営推進会議で報告をしている。地域住民の参加・協力が課題である。食糧・水等は1週間分備蓄し、生活用品や医療用品は法人と協力して備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室時は必ず合図して入るように、トイレや入浴時には声かけて配慮を行うことなどを徹底して行っています。人生の先輩であることを念頭に置き、接遇に注意し、本人に傷つけないように配慮を行っています。	職員は利用者の耳元でゆっくり、わかりやすく声かけをするように努め、「NGワード集」で日頃の言葉遣いを見直している。方言やジェスチャーでのコミュニケーションも行いつつ、馴れ合いの言動にならないよう努めている。同性介助を基本とし、排泄等の失敗時は、さりげなく対応する等、利用者の尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動時や外出する時に本人の意思を確認し、参加の声かけをするが、意思表示のできない方には身振り、手振りで表現声掛けしています。お化粧や身だしなみもできるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間1人1人違い、本人の生活リズムに合わせて支援しています。外出や手作業、入浴など入居者の希望や意思を尊重し、自分のペースで過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は化粧されたり、衣類を一緒に選んだりして身だしなみやおしゃれの支援をしている。意思決定の難しい方には汚れなどがあつた際には着替えるなどをして清潔を保っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	6月より人気メニューを週1回取り組んでおり、入居者の好きな料理を聞いたりしてメニュー決めていきます。又、食事前の配膳の準備と一緒に手伝ってもらったり、片付けをしたり残存機能を生かした支援をしています。	食事は朝は夜勤者、昼・夕は調理担当が作り、利用者は米とぎやメニュー書き、配膳等に参加し、職員も一緒に食事している。利用者や家族の希望に応え、寿司や刺身、うなぎ、海鮮丼等の人気メニューを提供している。野菜摂取に配慮した献立や外食の機会を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量のチェックは毎回行っています。水分摂取の少ない方には、専用のペットボトルをテーブルに設置していつでも飲めるように準備しています。食事では個々に合わせた食事形態を提供しています。		

沖縄県(グループホーム 星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けして行っています。歯磨きが上手にできない方には職員が磨き残しがないか入れ歯の状態、口腔内の状態を確認し、出来ていないところは支援して口腔内を清潔にしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンがあり、それに応じて排泄の声かけしてタイミングがずれないようにチェック表を確認しながら支援しています。また、入居者の表情や仕草でわかる場合もあるので、その場面を見逃さないように観察しています。	排泄チェック表で、個々の状況を把握し、日中は全員トイレ排泄を支援し、見守りはドアの外でしている。利用者によっては、排泄時にBGMを流したり、立ち上がり訓練を行う等、個別の支援をしている。排尿回数や尿量等に応じて、水分補給等も配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事には、乳製品や食物繊維を入れるように工夫しております。運動も大きな要素にありますので、レクリエーション・散歩等を行い活性化に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	6月より入浴を週4回行っており、希望すれば毎日入れるようにしています。通常は午前入浴しているが、本人の希望を取り入れた時間帯に入浴の支援をしています。又、尿臭・皮膚トラブルがある方には声かけして入浴してもらい清潔保持に努めています。	毎日入浴したいという利用者の希望や清潔保持を優先し、週4回の入浴支援を行い、入浴の曜日を各居室のドアに大きく掲示している。入浴は、体調やプライバシーに配慮し、カーテンやタオルを利用している。1人で入りたい利用者は、ゆっくり入ってもらえるよう後半に組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣に合わせて、入眠時間や休息時間は本人に声かけして本人のペースで対応している。フロアではゆっくりくつろげるように話をしたり、休息ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できるように一覧表のファイルを設置している。薬に変更があった場合、情報をノートに記入し全員で共有するように申し送りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、主体的に役割を担えるように職員が付添い、声かけしている。食事の配膳の準備をしたり、メニューをボードに書いたりしてその人らしさが活きるように支援しています。		

沖縄県(グループホーム 星のふる里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物は入居者の希望も添えながら行っています。地域の行事に出かけたり、職員と一緒に買い物したりして気分転換をしています。ご家族より行事等には是非協力したいとの申し入れもあり、これからは協力しながら取り組んでいきたいと思ひます。	普段は事業所周辺の散歩を支援し、スーパーや市場への食材の買い出しの際に、お菓子等の買物支援をしている。遠出の外出は月に1~2回行い、車椅子の方も含め、全員で公園や花見等に出かけている。旧盆に自宅に帰る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人より買い物の申し入れがあった場合は、一緒に買い物したりして希望に添えるようにしています。お金は自分で管理し、領収書は職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を掛けられるように支援しています。本人が電話をかけたい時はその都度対応しています。毎月ホーム便りを発行し、家族へ近況報告しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは季節感を味わえるよう、季節に合わせた飾りつけを行っている。入居者様からはきれいねーと喜ばれており、重宝している。水分補給時やゆんたく時間には民謡など曲を流して、一緒に歌ったりしてリラックスしています。	玄関フロアの壁に、職員の顔写真と名前が大きく張り出され、「今月の努力目標」も大きな字で掲げられている。共用スペースにL字型ソファがあり、利用者は好みの場所でテレビを見たり、昼寝をしている。西日対策として、窓の外側にもカーテンを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間としてフロアにソファを設置して、足を上げて座ったり、本や歌詞集を観て歌ったり個人の過ごし易い環境づくりをしています。ご家族の面会時はソファと一緒に座り過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染の物を(家族の写真や孫からの似顔絵等)飾って頂き、気持ちよく心地よく過ごせるよう環境づくりをしています。	各居室にベッド、タンス、鏡台、イスとテーブル、テレビ、洗面台が設置され、毎食後の歯みがきは自室で行っている。利用者は、家族写真や絵、ラジカセ、観葉植物を持ち込んでいる。コーヒー好きな利用者は自前で準備し、好きな時に飲んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの機能(ADL・QOL)状態を確認し、出来るだけ残っている機能を引き出し、自立した生活が送れるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム 星のふる里

作成日 : 平成 29 年 2 月 6 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域密着型サービスにおける運営推進会議の意義と役割を確認し、行政が毎回参加可能な検討及び議事録を整備すると共に委員への議事録の提供が望まれる。	運営推進会議の意義と役割を確認して、サービスの向上に活かせるように職員一丸となって実施、努力していきます。又、議事録の内容が委員に伝わるよう、確認できるように記載し、整備していきます。	会議での行政の出席が確立できるように連絡、確認を徹底していきます。議事録の整備は次回の会議までに改善してさらに整備してまいります。	3ヶ月
2	8	利用者がそれぞれの地域で培ってきた人間関係や社会との関係の把握に努め、馴染の人や場へ支援が望まれる。	本人がこれまでに大切にしてきた馴染の人や場所に出会い、出向くことによって人間関係、社会関係をより深く築くことが出来る。今後は本人・家族親戚等より情報を収集し、実施に向けて計画していきます。	本人・家族より要望・意見を聞き取り、馴染の地域や場所への外出を定期的に計画して試みていきます。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。